我等の愛國心

＝民族と階級について＝

次のたかかへ　リレー

（4）

現在、ヘルシンキでのオリンピック熱にみんなの関心を奪えているものはないように思われる。

新聞でもそうだが、実況放送では「日本頑張れ」「日本危い」等と何度も叫ばれ、聞く者を独特な興奮状態に陥いこんでしまう。

嘗て「民族の祭典」と言うナチス独逸のオリンピック映画があったが、参加国の国旗をあちこちに何十本もなびかせ選手たちに民族の誇りを打出す重荷を加えている。日本も十六年ぶりの参加だし、北欧の空に日章旗が鮮やかだろうと想像する。

民族とは何か

「民族とは、言語、領土、経済的に纏かれた永続性ある共通性生活、及び文化の共通性として顕現される伝統的心理等の共通性によって統一された、人間の歴史的共同体である」この引用文も仲々判りにくいが、民族は確かに或る共通性を基礎とする実在であるから我々は一切の不平不満を弾圧したのれ、次いで「祖国再建、生産増産」の号令が掛けられた。成程、我々の生活も終戦後よりは良くなったが、能率も上ったし、相対的に資本家側の企業利潤の増大とは

さて、前号で本部の河野氏が「民族主義」を提起されたし、オリンピック放送で考えさせられましたので編問に取付いて見る。

「民族とは言語、領土、経済的に纏かれた永続性ある共通性生活、及び文化の共通性として顕現される伝統的心理等の共通性によって統一された、人間の歴史的共同体である」この引用文も仲々判りにくいが、民族は確かに或る共通性を基礎とする実在であるから我々は一切の不平不満を弾圧したのれ、次いで「祖国再建、生産増産」の号令が掛けられた。成程、我々の生活も終戦後よりは良くなったが、能率も上ったし、相対的に資本家側の企業利潤の増大とは

問題を生むのである。

そしてこの対立は、紳士的な取引ではなく実力をかけた階級闘争である。然もこの対立が、我々の民族の中で実在する。と言うことが

我々は国民中の多数者としてのこれから言語とか領土等の変遷とが考えられる。例えば封建制に於ける維新前の各藩は、夫々の言語や文化に著しい差があったし各藩が対立し合っていたから、決して現在の日本人としての民族的な共通性は持っていなかった。

従って「民族意識」なるものは人間の歴史的発展の諸段階に即応しつゝ進化することが判るのであるから、同時に単なる感情、観念に

愛國の裏と表

前項で「民族」を分析し「祖国日本を限りなく愛する」と私は述べたのであるが、言語や領土や経済生活や共通にする民族としての団結や愛情は、いわば「愛国」の裏玄関であって当然なことである。但し、このような民族としての素朴な団結や愛情は屢々悪用されて「愛国」の裏玄関につながるのである。

それは「思考愛国」の精神であり、戦争中の「産業報国会」である。但し、現在の「愛国労働運動」でも共通性、悪罵で同民の不安と憎悪をかり立てられて「愛国」の裏玄関につながるのである。

「鬼畜米英」と言う極端な制定している。終戦後は「資本家なんてものはいないのだ」と言わ

は旧日本の支配者たちであった。

そこで我々は、民族的な共感から祖国日本を当然に愛し作らも「愛国」と言う言葉には神経質とならざるを得ないのである。

それは民族の中に物質的な利害が相反する二つの分派、即ち階級対立があるからであり「国家権力」が何れの手に握られているか？と言う問題に帰着する。

「金持は白米を喰い、貧乏人は麦を喰え」と言った政府が「ゼネスト禁法」や「破防法」を無理押しに

民族とは名ばかり

民族的な共感を認め作らも、一方では民族内に於ける階級対立を分析した我々は一体どんな風に祖国日本を愛すべきであるか。

凡そ「国家」は人類発生以来絶えず進化して来た。それは真、善、美を追求する哲学で進化したのであろうか。それは支配されていた者の自覚と闘いによって進化したのではなかっただろうか。

過去の人類の歴史では、被支配者が、現代の労働者階級の如く弾力に闘ったことはない。然も、同じ闘いが各国で行われているだけでなくそれは民族を越えた協力態勢をさえ布いている。

さて、我々は現在の日本が如何に反動的であっても「外国」を祖国とする事は出来ない。

愛國心と階級

我々は国民中の多数者としてのこれから言語とか領土等の変遷とが考えられる。例えば封建制に於ける維新前の各藩は、夫々の言語や文化に著しい差があったし各藩が対立し合っていたから、決して現在の日本人としての民族的な共通性は持っていなかった。

従って「民族意識」なるものは人間の歴史的発展の諸段階に即応しつゝ進化することが判るのであるから、同時に単なる感情、観念に

勞働者階級の愛國心

民族的な共感を認め作らも、一方では民族内に於ける階級対立を分析した我々は一体どんな風に祖国日本を愛すべきであるか。

凡そ「国家」は人類発生以来絶えず進化して来た。それは真、善、美を追求する哲学で進化したのであろうか。それは支配されていた者の自覚と闘いによって進化したのではなかっただろうか。

過去の人類の歴史では、被支配者が、現代の労働者階級の如く弾力に闘ったことはない。然も、同じ闘いが各国で行われているだけでなくそれは民族を越えた協力態勢をさえ布いている。

さて、我々は現在の日本が如何に反動的であっても「外国」を祖国とする事は出来ない。

愛國の裏と表

前項で「民族」を分析し「祖国日本を限りなく愛する」と私は述べたのであるが、言語や領土や経済生活や共通にする民族としての団結や愛情は、いわば「愛国」の裏玄関であって当然なことである。但し、このような民族としての素朴な団結や愛情は屢々悪用されて「愛国」の裏玄関につながるのである。

それは「思考愛国」の精神であり、戦争中の「産業報国会」である。但し、現在の「愛国労働運動」でも共通性、悪罵で同民の不安と憎悪をかり立てられて「愛国」の裏玄関につながるのである。

「鬼畜米英」と言う極端な制定している。終戦後は「資本家なんてものはいないのだ」と言わ

は旧日本の支配者たちであった。

そこで我々は、民族的な共感から祖国日本を当然に愛し作らも「愛国」と言う言葉には神経質とならざるを得ないのである。

それは民族の中に物質的な利害が相反する二つの分派、即ち階級対立があるからであり「国家権力」が何れの手に握られているか？と言う問題に帰着する。

「金持は白米を喰い、貧乏人は麦を喰え」と言った政府が「ゼネスト禁法」や「破防法」を無理押しに

勞働者階級の愛國心

民族的な共感を認め作らも、一方では民族内に於ける階級対立を分析した我々は一体どんな風に祖国日本を愛すべきであるか。

凡そ「国家」は人類発生以来絶えず進化して来た。それは真、善、美を追求する哲学で進化したのであろうか。それは支配されていた者の自覚と闘いによって進化したのではなかっただろうか。

過去の人類の歴史では、被支配者が、現代の労働者階級の如く弾力に闘ったことはない。然も、同じ闘いが各国で行われているだけでなくそれは民族を越えた協力態勢をさえ布いている。

さて、我々は現在の日本が如何に反動的であっても「外国」を祖国とする事は出来ない。

愛國の裏と表

前項で「民族」を分析し「祖国日本を限りなく愛する」と私は述べたのであるが、言語や領土や経済生活や共通にする民族としての団結や愛情は、いわば「愛国」の裏玄関であって当然なことである。但し、このような民族としての素朴な団結や愛情は屢々悪用されて「愛国」の裏玄関につながるのである。

それは「思考愛国」の精神であり、戦争中の「産業報国会」である。但し、現在の「愛国労働運動」でも共通性、悪罵で同民の不安と憎悪をかり立てられて「愛国」の裏玄関につながるのである。

「鬼畜米英」と言う極端な制定している。終戦後は「資本家なんてものはいないのだ」と言わ

は旧日本の支配者たちであった。

そこで我々は、民族的な共感から祖国日本を当然に愛し作らも「愛国」と言う言葉には神経質とならざるを得ないのである。

それは民族の中に物質的な利害が相反する二つの分派、即ち階級対立があるからであり「国家権力」が何れの手に握られているか？と言う問題に帰着する。

「金持は白米を喰い、貧乏人は麦を喰え」と言った政府が「ゼネスト禁法」や「破防法」を無理押しに

勞働者階級の愛國心

民族的な共感を認め作らも、一方では民族内に於ける階級対立を分析した我々は一体どんな風に祖国日本を愛すべきであるか。

凡そ「国家」は人類発生以来絶えず進化して来た。それは真、善、美を追求する哲学で進化したのであろうか。それは支配されていた者の自覚と闘いによって進化したのではなかっただろうか。

過去の人類の歴史では、被支配者が、現代の労働者階級の如く弾力に闘ったことはない。然も、同じ闘いが各国で行われているだけでなくそれは民族を越えた協力態勢をさえ布いている。

さて、我々は現在の日本が如何に反動的であっても「外国」を祖国とする事は出来ない。

保守陣はごめんだ

大地評の選挙對策決る

大地評では来るべき総改選に備えて七月三十日に事務局や選挙委員會を開催、厳例的に保守反動派に對しては反対する旨を決議し来る八月五日公認候補を決定することとなつた。

一、選挙期日の見通し

1、八月末解散　九月初旬―中旬告示

十月初旬―中旬投票、以上の日程は現在の処相当信頼が置けるものと判断される

2、右の日程を落着すれば、事前に労組の体勢を作る期間は極めて短いと思われる、改正選挙法によれば候補者廿五人以上出していないと運動は出来ない）から八月一杯か精々四十日位の期間で労組の運動を展開しなければならない

二、三区の状況

福岡県第三区は現在次の顔ぶれが立候補すると予想される

△福田党　石井光次郎（元大臣、久留米）同　山崎巌（元大臣、三潴郡）同　甲木保（現、同）同　麓野喜一郎（現、同）同　岡橋捷八（前、久留米）△社会党（左派）田中稔男（前、大牟田）同（右派）稲富稜人（前、三潴郡）△改進党　荒木万寿夫（現大牟田）同　橋本源（前、久留米）△農民協同党　豊福保次（三井郡）△其の他　宮崎小市（大牟田）

など十五、六名位は出る模様である。

保守党候補は既に相当な金額を固守して廃んに運動を展開している。大牟田に於いても、その動きは活潑である。

三、以上の諸情勢を考察して我々は大地評選挙対策方針に基き次の通り運動計画を決める

計画

1、候補者を八月五日迄に決定し対外的にアピールする（隠本荒尾関係を含む）

2、大地評選対予算は右と同時に決める

3、各組合は選挙対策委員会を作り運動に入る

4、大地評選対は直ちに三区労農組織に呼びかけて戦線統一を計る

具体的には、久留米地協との提携、久留米大牟田合同による都部労組とのカンパ、組織の結成、荒尾地協との連繋

5、情宣活動

イ、大地評選対による弁士団の編成

ロ、演説会、座談会、講演会などの開催

八月十日より実施、市内外の巡回、日程等細部のプランは選対で作る

ハ、組合日常業務との絡み合せによる社宅内の情宣

ニ、機関紙による宣伝

ホ、右は情宣に関する法規その他との関係は大地評より指示連絡する

三染の無期限ストを遂に一時中止

必要に應じ實力行使を確認

十五日以来続いた三染労組は廿五日常闘委の帰宅を待って常任闘争委員会をひらき今後の対策につき種々論議の結果

一、ストを続行して得られる金額よりも組合員の出血が大きい

二、首切り問題が近づきつゝある

三、このまゝストを続行すれば組合の分裂を招く

大体以上のような理由を根拠に指令第六号（十五日からの無期限ストを）解除を主張する側と会社の不誠意を改めさせる為あくまでも実力行使で臨むべきだ、分裂の要素を含んでいる事は事実だがそれは常闘のハッキリした方針が打出されなかったからであり、対策は確立され得るとする強硬派との間に激論が交されたが、結局ストは一時中止することに決定、この結論を二十五日午後二時半からの闘争委員会に提案され、中央における交渉経過及び第三者の斡旋依頼に対する疑応答がなされ、重要部門をストに入れなかった理由、或は常闘の思想の統一に対して痛烈な批判がなされ、強硬意見が述べられ、指令第六号によるストライキは一時中止とする七九、しない三、中立五次に今後の対策についての議論がなされ、今までストをやって来て効果がなかったので今後は実力行使の交を収めて平和交渉に移るべきだとの意見もあったが、結局、採決の結果五〇対二四、中立一〇で一時中止することとなった。

全國勞組體育大會　卓球縣豫選

三鑛女子優勝逸す

労働省主催卓球福岡県予選は七月廿一日迄選手が奮闘して予選には勝ち残っていたであろう。

二十七日午前九時から福岡西新卓球会館に於て各地区の予選で優勝女子は初め予選に安川電機と組み二十七日午前九時から福岡西新卓球会館に於て各地区の予選で優勝女子は初め予選に安川電機と組み二対一とリードされたが後半の作戦で逆転し二対一とリードされたが後半の作戦で逆転し二対一とリードされたが後半の作戦で逆転し